

### 第 3 回 豊明市立地適正化計画策定委員会 議事要旨

日 時	令和元年 11 月 11 日（月） 13：30～15：00																																	
場 所	豊明市役所 東館 1 階 会議室 6																																	
議事骨子	1. 開会 2. 報告事項 (1) 第 2 回策定委員会における意見とその対応（資料 1） (2) 前回からの主な変更点（資料 2） 3. 議題 (1) 第 7 章 実現化に向けて（資料 3） (2) 立地適正化計画（案）について（資料 4） (3) その他 4. 閉会																																	
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第、豊明市立地適正化計画策定委員会 座席表</li> <li>・ 資料 1 第 2 回策定委員会（7/22）における指摘事項と対応方針</li> <li>・ 資料 2 第 2 回策定委員会（7/22）からの主な変更点</li> <li>・ 資料 3 豊明市立地適正化計画（案）</li> <li>・ 資料 4 立地適正化計画（案）について 今後のスケジュール</li> </ul>																																	
委員	○12 名中 11 名出席 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #cccccc;"> <th style="width: 60%; text-align: center;">所 属</th> <th style="width: 40%; text-align: center;">氏 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■ 名古屋学院大学 現代社会学部長 教授</td> <td>井澤 知旦</td> </tr> <tr> <td>■ 社会福祉法人豊明市社会福祉協議会 会長</td> <td>加藤 誠</td> </tr> <tr> <td>■ 豊明市商工会 事務局長</td> <td>横山 孝三</td> </tr> <tr> <td>■ 名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部 計画部 計画課長</td> <td>成瀬 友晃</td> </tr> <tr> <td>■ 名鉄バス株式会社 運行課長</td> <td>吉岡 実</td> </tr> <tr> <td>■ 独立行政法人都市再生機構中部支社 都市再生業務部次長</td> <td>小林 康彦</td> </tr> <tr> <td>■ 学校法人藤田学園 藤田医科大学教授 地域連携教育推進センター長</td> <td>石原 慎</td> </tr> <tr> <td>■ 学校法人桜花学園 名古屋短期大学教授</td> <td>小島 千恵子</td> </tr> <tr> <td>■ 愛知県都市整備局都市基盤部都市計画課 課長</td> <td>片山 貴視</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">代理 大見 明弘</td> </tr> <tr> <td>□ 愛知県尾張建設事務所 企画調整監</td> <td>林 克生</td> </tr> <tr> <td>■ 豊明市行政経営部長</td> <td>藤井 和久</td> </tr> <tr> <td>■ 豊明市市民生活部長</td> <td>馬場 秀樹</td> </tr> </tbody> </table>	所 属	氏 名	■ 名古屋学院大学 現代社会学部長 教授	井澤 知旦	■ 社会福祉法人豊明市社会福祉協議会 会長	加藤 誠	■ 豊明市商工会 事務局長	横山 孝三	■ 名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部 計画部 計画課長	成瀬 友晃	■ 名鉄バス株式会社 運行課長	吉岡 実	■ 独立行政法人都市再生機構中部支社 都市再生業務部次長	小林 康彦	■ 学校法人藤田学園 藤田医科大学教授 地域連携教育推進センター長	石原 慎	■ 学校法人桜花学園 名古屋短期大学教授	小島 千恵子	■ 愛知県都市整備局都市基盤部都市計画課 課長	片山 貴視		代理 大見 明弘	□ 愛知県尾張建設事務所 企画調整監	林 克生	■ 豊明市行政経営部長	藤井 和久	■ 豊明市市民生活部長	馬場 秀樹					
所 属	氏 名																																	
■ 名古屋学院大学 現代社会学部長 教授	井澤 知旦																																	
■ 社会福祉法人豊明市社会福祉協議会 会長	加藤 誠																																	
■ 豊明市商工会 事務局長	横山 孝三																																	
■ 名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部 計画部 計画課長	成瀬 友晃																																	
■ 名鉄バス株式会社 運行課長	吉岡 実																																	
■ 独立行政法人都市再生機構中部支社 都市再生業務部次長	小林 康彦																																	
■ 学校法人藤田学園 藤田医科大学教授 地域連携教育推進センター長	石原 慎																																	
■ 学校法人桜花学園 名古屋短期大学教授	小島 千恵子																																	
■ 愛知県都市整備局都市基盤部都市計画課 課長	片山 貴視																																	
	代理 大見 明弘																																	
□ 愛知県尾張建設事務所 企画調整監	林 克生																																	
■ 豊明市行政経営部長	藤井 和久																																	
■ 豊明市市民生活部長	馬場 秀樹																																	
事務局	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #cccccc;"> <th style="width: 30%; text-align: center;">部 署</th> <th style="width: 30%; text-align: center;">職 名</th> <th style="width: 40%; text-align: center;">氏 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経済建設部</td> <td>部長</td> <td>宇佐見 恭裕</td> </tr> <tr> <td>経済建設部</td> <td>次長</td> <td>若林 博志</td> </tr> <tr> <td>都市計画課</td> <td>課長</td> <td>中野 忠之</td> </tr> <tr> <td>都市計画課</td> <td>課長補佐兼計画建築担当係長</td> <td>後藤 明紀</td> </tr> <tr> <td>都市計画課</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>市街地整備課</td> <td>課長</td> <td>川島 康孝</td> </tr> <tr> <td>市街地整備課</td> <td>計画推進担当係長</td> <td>野村 和義</td> </tr> <tr> <td>市街地整備課</td> <td>主事</td> <td>池村 貴司</td> </tr> <tr> <td>豊明市市街地整備アドバイザー</td> <td></td> <td>河北 裕喜</td> </tr> <tr> <td>その他（玉野総合コンサルタント株式会社）2 名</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	部 署	職 名	氏 名	経済建設部	部長	宇佐見 恭裕	経済建設部	次長	若林 博志	都市計画課	課長	中野 忠之	都市計画課	課長補佐兼計画建築担当係長	後藤 明紀	都市計画課			市街地整備課	課長	川島 康孝	市街地整備課	計画推進担当係長	野村 和義	市街地整備課	主事	池村 貴司	豊明市市街地整備アドバイザー		河北 裕喜	その他（玉野総合コンサルタント株式会社）2 名		
部 署	職 名	氏 名																																
経済建設部	部長	宇佐見 恭裕																																
経済建設部	次長	若林 博志																																
都市計画課	課長	中野 忠之																																
都市計画課	課長補佐兼計画建築担当係長	後藤 明紀																																
都市計画課																																		
市街地整備課	課長	川島 康孝																																
市街地整備課	計画推進担当係長	野村 和義																																
市街地整備課	主事	池村 貴司																																
豊明市市街地整備アドバイザー		河北 裕喜																																
その他（玉野総合コンサルタント株式会社）2 名																																		
傍聴者	なし																																	

## 1. 開会

川島課長

皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただいまから第3回豊明市立地適正化計画策定委員会を開催させていただきます。本日はお忙しい中ご出席いただきまして、どうもありがとうございます。本日の進行を務めます豊明市市街地整備課長の川島です。どうぞよろしくお祈いします。本日は委員12名のうち、林委員が欠席のため11名の委員様にご出席いただいております。立地適正化計画策定委員会の設置条例第6条第2項により、委員会が成立していることをご報告させていただきます。また、本日は立地適正化計画策定業務を委託しております玉野総合コンサルタント株式会社の担当も同席していただき、発言の機会をいただく場合もございますので、ご了承くださいませようよろしくお祈いいたします。それでは井澤委員長よりごあいさつをお祈いいたします。

井澤委員長

皆さんこんにちは。昨晚から今朝の色々なニュースをみていると天皇后陛下の即位、祝賀パレード等一色で、やっと令和が本格的に始まったのかといった感じがしております。そういった意味で平成も30年過ぎたのですが、令和の最初の年度にこの計画をつくるということでいいですね。ということは、これは確実に計画1号になっていくと思います。ちょっと心を引き締めて令和スタートの計画をつくっていきたくお祈いしておりますので、どうか本日はよろしくお祈いします。

川島課長

ありがとうございました。それでは次に資料の確認をさせていただきます。事前にお祈いさしていただいております本日の次第、資料1として第2回策定委員会における指摘事項と対応方針、資料2として第2回策定委員会からの主な変更点、資料3として立地適正化計画の計画書、資料4として立地適正化計画案についてをお祈いしております。あと、先ほど机上でお祈いさしていただきました12月1日開催のコンパクトなまちづくりの講演会と立地適正化計画説明会のリーフレット、以上が本日の資料となります。皆様お手元にございますでしょうか。

よろしければ委員会を進めさせていただきます。それでは委員会の進行につきましては立地適正化計画策定委員会設置条例第6条に基づき、井澤委員長に議長をお祈い致します。

井澤委員長

それでは会議に入る前に傍聴者の確認をしたいと思ひます。本日は傍聴希望の方はおられるのでしょうか。

川島課長

傍聴者はございませぬ。

井澤委員長

分かりました。それでは傍聴者がいないということなので会議を再開したいと思ひます。次第の2、第2回策定委員会とその対応につきまして、事務局より説明をお祈いします。

## 2. 報告事項

### (1) 第2回策定委員会における意見とその対応（資料1）

※資料説明（資料1）及び質疑応答

質問なし。

### (2) 前回からの主な変更点（資料2）

※資料説明（資料2）及び質疑応答

横山委員 資料3の54ページの浸水の図が上下にあるが、上下の図の違いやなぜ2枚必要なのかを説明していただきたい。同じ浸水の危険性を示す図面で何か基準の違いがあると思うが、どう違うのか。1枚で示さないと分かりにくい気がする。

事務局 上の図は愛知県の河川課が出している洪水浸水想定区域図で、これは外水氾濫の図面です。下の図面は豊明市の下水道課から出している図面で、内水氾濫を示しています。両方掲載することが分かりにくくなっているようでしたら、検討します。

事務局 資料3の33, 34ページに先ほどの図を大きくしたのがあります。33ページの浸水想定区域については100年に1回レベルの降雨が発生した時の浸水想定区域の資料になります。34ページのほうは、下水道の整備状況に対して都市浸水の発生を防ぐべき目標となる降雨(1時間あたり52mm、年超過確率1/5)が降ったことによって、災害が発生しないように作成したシミュレーションになります。

井澤委員長 そうすると洪水の確率論に違いがあると。100年に1度と5年に1度のような。もちろん対象が下水道と河川の氾濫に分かれていると思うのですが、イメージしやすい言い方をすると100年確率と5年確率みたいな、そんな理解でよろしいでしょうか。

河北アドバイザー 今の話でいうと、上の図が境川の堤防が決壊した時で、それに対して下の図は都市に降った雨に対する対応のもので、浸水の質が違うというご理解をいただいたほうがいいかなと思います。

井澤委員長 たまたま確率に違いが出るけども、洪水の性質が違うということですね。堤防決壊はこの前の長野の千曲川決壊のイメージが上の図で、排水能力が追いつかず河川のほうに排水できないために都市内が水に浸かってしまう、というのが下の図ということですね。

横山委員 境川の堤防が切れたらこんな事では済まないと思いますけども。

井澤委員長 境川がどれだけの降雨で決壊するかというのもあると思いますけどね。

川島課長 浸水的前提条件をこの資料に付け加えさせていただいて、誤解の生じないようにしていきます。

井澤委員長 一般市民も目にすることを前提にすると、市民に分かりやすい書き方のほうが良いと思います。

加藤委員 資料2の④で説明していただいた内容で、都市機能誘導区域の一部見直しをした結果、豊明駅の北側に区域が拡張している。一方、南側は花き市場と道路があつて線路があつて、その間に土地がある。その土地はJA関連の施設が入っていて現在撤退をしていると思うが、そこも利用価値があると思う。特に豊明駅南側に都市機能誘導区域を指定していただかないと、豊明駅南側の発展の可能性が無くなると考えられる。部会での議論があつたかどうか確認していただきたい。

事務局 部会の中では豊明駅南側をどうするかといった議論は出なかつたのが1点と、もう1点が市街化区域の中をどうするかといったことが立地適正化計画になっているということです。南側に花き市場もあれば利便性の良い場所もあるのですが、この計画の中では区域に含めるのはできません。ただし、市街化調整区域は今後もしないというわけではなく、都市計画マスタープランの中で市街化調整区域の土地利用等の方針も謳っております。豊明駅南側は産業系の土地利用を将来的に考えていく区域という位置づけもあるので、そういったところで今後検討をしていきたいと思っています。

### 3. 議題

#### (1) 第7章 実現化に向けて(資料3)

##### ※資料説明(資料3)及び質疑応答

石原委員	子育て世代に関する目標値について2点教えていただきたい。まず1点目は、資料3の86ページの30～49歳人口の目標値について。人口が予想値よりも減らなかった場合、目標値を達成できない可能性がある。パーセントの目標値設定がいいのか、絶対値の目標値設定がいいのか、豊明市は福祉政策を実践している市ということで市の中で相反する目標になっていないかどうか、ということを確認していただきたい。2点目は保育園、こども園の定員数について。定員数はあくまで定員のため、市が定員を1,000人にすることも可能で、定員数より充足率の問題ではないかと思う。定員数を目標にすれば、現在の定員数669人のままで行くと目標達成になるため、子どもの充足率で目標値の達成を見たほうがいいのかと思う。
事務局	30代と40代の目標値について、子育てに目線をおいて数値を設定しておりましたので、高齢者の目標値のところまでしっかり把握しておりませんでした。こちらは担当課と調整して、パーセントがいいのか絶対値がいいのか確認させていただきたいと思います。もう1点の保育園の定員数については、定員数がいいのか充足率がいいのかといった意見があるのですが、充足率の場合だと新しく保育園を建てたときに充足率が下がっていくことも考えられます。今後、定員数をそのままにしておけばといった意見もあるのですが、実際に定員数を確保するにあたっては職員数も確保しないといけません。実際に必要な定員に見込みがないのにそれだけの職員を確保するということは、市の行財政にとってもいいことではないので、適正な定員数の設定は必ずしていかなければいけないと考えております。以上より、都市機能誘導区域外については今後子どもの数が減った場合に定員数が減ることになるかもしれないが、都市機能誘導区域内では周辺の居住誘導区域の人口密度を低下させないようにすることで、将来にわたって現在の水準を維持したいといった意図でこの目標を設定しています。
小林委員	資料3の77ページにある豊明団地の誘導区域についての記載について、2点教えていただきたい。1つ目は、誘導施設の項目にある高齢者福祉施設(健康増進施設)の2行目に「施設立地のための用地確保も可能な場所である」といった記載があるが、具体的にどこで用地確保が可能な場所なのかを教えていただきたい。2つ目に「健康増進施設を設定する」とあるが、健康増進施設の誘導施策の記載がないため、どういう施策をやっていくのかを記載したほうが良いと思う。もし記載ができないのであれば、都市マスや高齢者福祉計画なので具体的に触れていくのもありかなと。とにかく何らかの計画で誘導施策を考えていかないと話が進まないと思う。
事務局	まず77ページの施設の立地の用地確保が可能な記載について、63ページから67ページに各誘導区域の詳細図が載っています。その中でも67ページの豊明団地周辺は他の区域に比べて公共施設が多く立地していて、跡地活用がしやすい区域であると認識しております。用地確保が可能といった記載は、他の区域に比べると用地確保しやすいといった意味があります。もう1つの健康増進施設に対する施策については、作業部会等で施策の議論を行っていたのですが、今のところ具体的な施策は出てきていない状況です。今日の委員会での意見をいただいて、再度検討いたします。

井澤委員長	用地確保の場所については公共施設の転用が可能といったイメージですか。要するに今後まっさらな土地を確保するというよりも、公共施設がたくさんあって、いずれ公共施設では無くなる土地を転用するといったことですか。
事務局	今後の流れとしては公共施設を集約、縮小していくといった方向性があります。そういった流れの中で生まれた跡地の活用が比較的しやすい区域だと考えております。
加藤委員	85 ページの公共交通に関する目標値で、公共交通の指標がひまわりバス 1 点に絞られているが、チョイソコも走っている中で 1 点に絞った理由はあるのか。
川島課長	チョイソコは杣掛などの市街化調整区域をカバーするもので、市を網羅的に走るような公共交通として位置付けています。一方で、ひまわりバスは市の中心部を循環する機能を持たせて運行しています。1 つの指標として、どの公共交通を使ったらいいかというところで、ひまわりバスは居住誘導区域を循環しているため、この利用者が増えれば居住誘導区域内に人が集まっている結果に繋がると考えています。よって、ひまわりバスに関する数値目標を定めています。別途、地域公共交通網形成計画ではチョイソコもたくさん利用していただき、名鉄、名鉄バスそれぞれについても記載しています。そのため、居住誘導区域内に人が集まって、高齢者の人が車に依存せずに公共交通を利用しているかといった指標は、ひまわりバスが 1 番妥当だということでこの目標にしています。

## (2) 立地適正化計画(案)について(資料4)

### ※資料説明(資料4)及び質疑応答

質問なし。

## (3) その他

河北アドバ イザー	資料3の33ページの説明で一部訂正があります。こちらの図は境川および逢妻川の流域の河川が氾濫した場合に想定される浸水状況です。先ほど私は、堤防が「決壊」と言いましたが「氾濫」でございます。そのため氾濫の中には決壊も一部入りますが、越水することも氾濫の定義に含まれます。
井澤委員長	まだ時間がありますので、皆さんに一言ずつコメントをいただきたい。 どういった観点からでも結構ですので、何か一言いただきたいと思えます。
加藤委員	私は社会福祉協議会で、福祉重点の母体で出席をさせていただいている。都市機能の拠点の中では色々な人たちが住んでいる。特に、障害をお持ちの方もお見えになるし、そういった生活弱者の配慮も欠かせない問題だと思う。それともう1つは、豊明は現在2/3が農地で、それは今後もそのまま推移していくと思うので、農地を中心とした都市計画も必要かなと。それと併せて、生活弱者もこの中で生きていくといったまちづくりが必要だと思う。
横山委員	浸水のこと引き続きですが、資料3の54ページで浸水の可能性のある区域も居住誘導区域に含めると書かれている。今後、豊明市の都市マス等を改定される時にも整合を図っていただきたい。
石原委員	我々の大学は総合医療大学でございますので、豊明市とともに計画、施策の中に入ってまちづくりをさせていただくことを常に考えている。ぜひ、そういった視点から一緒に

まちづくりができればと思う。

小島委員

桜花学園の主要学部は保育である。子どもが少なくなる社会でどういった子どもを育てていくのかは本校の中心の課題でもある。昨年、新しく保育所保育指針が改定されて、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿の中に、社会生活の関わりという項目ができた。その中で、子どものいるところのまちは活気があると。そういう社会をつくるということがコミュニティづくりにもなるし、まちが輝くことになるということは保育の世界でも言われている。豊明市とは、本学の専攻科の学生がワーキングスタディという形で関わりを持っている。保育園の定員を多くすれば保育士の数がたくさん必要になるが、保育士不足で園を閉めないといけない現状も出てきている。本学の幼稚園をこども園にしていくことも考えていて、そういった点でも豊明市と協力ができたらなと思う。

大見委員

行政の人間なので実務的なアドバイスをさせていただく。1つは、誘導施設の商業機能で食料品スーパーの設定について。市民に対しては、何となくアオキスーパーのような施設が駅前にほしいと分かっていただけだと思うが、実際に届出をするときに食料品スーパーとは何だということになる。例えばコンビニ、ドラッグストアでも食料品を売っているので、事業者の方に向けて整理をされたほうが良いと思う。もう1点は、75～77ページの地域ごとに誘導施設を整備する方針について。豊明駅周辺の項目を見ると、豊明駅周辺の誘導区域はエリアが狭いのに、既に子育て支援施設がある場所にさらに2つ目3つ目を作っていくような、誤解を生みそうな表現をしている気がする。先ほどの話で、今ある施設を維持することは聞けばわかるのですが、文章を見ただけでは誤解を招く可能性もあるので、そのあたり整理されたほうが良いと思う。

小林委員

私がいるのはURの中でも都市再生部門で、いわゆるまちづくりで各行政とご一緒させていただくところにいる。今回は豊明団地を取り上げて、施策が弱いのではないかと意見させてもらった。全国の各自治体はスポンジ化してきて、これからは少子高齢化の中で集約型の都市をつくらないといけない流れだと思う。我々も神戸のようなニュータウンの開発をやめて、現在はオールドニュータウンの問題を抱えている中で、都市機能を集約していこうということで居住機能や都市機能の誘導をきっちり定めていくことがこの立地適正化計画である。どの自治体もこの計画を作っていますが、都市間競争の中で勝ち残っていくしかないのが実情のなかで、計画をつくるだけでは勝てないと思う。80、81ページの誘導施策で、国の施策は税制優遇等きっちり制度化されていますが、市独自の施策では検討しますが多くなっている。他より先に具現化を図っていくことをしないと、都市間競争に勝ち抜けないと思う。関係各部の方は具体的な施策の検討を進めていただけたらと思う。

成瀬委員

感想に近い意見が2点、まず1点目で85ページの公共交通に関する目標値について。今後増加する高齢者の人口にあわせて、ひまわりバスの年間利用者数21万人に設定している。人の動きが増減することを踏まえると、車との分担率等で測ってみると面白いと思う。データが取りづらい所もあると思うが、一度検討してみたいかかなど。2点目で、82、83ページの進行管理と数値目標について、3つの施策に対して数値目標があったのですが、これは何が起因してこの評価になるのかがないと感じにくくなると思う。今後PDCAをまわしていくことに対して、有用な数値目標値を間に1つ設定する

と、要因分析もしやすくして次の着地点が見つかるように思う。

井澤委員長

それはどんなイメージか。

成瀬委員

例えば、空き家への対応といった場合は空き家がこれだけになった、子育て支援施設の誘導であれば何軒から何軒になったとか、目標に対してこういう進捗です、こう達成しました、これで達成できなかったから最終目標である人口密度が達成できませんでしたとか、そういうのがあると施策の有効性や評価ができると感じる。

吉岡委員

我々の路線網は生活拠点を結びながら運行しているという経緯がある。豊明市自体がコンパクトで、その中で我々の路線は人口が集まっているところを結んで運行している。また商業、医療施設を集約させることによって我々の路線網をより充実をしていく、現状が維持できるということになると思う。高齢者支援については我々の施策も考えていけないといけない部分は当然あると思う。そういった課題を整理しながら、豊明市、また各地区においても施設の集約が大きく結びついて、それぞれがうまく機能していく形になると思う。また、我々の路線がない場所についても豊明市はひまわりバスやチョイソコの取り組みもあるので、高齢者の方もそれ以外の方も商業、医療施設を集約することによって、お互いに良い方向に向かっていくのではないかなと思う。我々も充実した路線を維持できるように、しっかりと今後も務めていきたいと思う。

藤井委員

計画をつくるのは市街地整備課で、政策にどう結びつけていくのかは我々幹部がしっかりと課に伝える。計画では政策が問われるわけなので、そこはしっかり考える。あと感想として豊明団地で健康増進施設の話があるが、公共施設というよりは空き店舗で健康増進施設を歩いていける範囲につくっていくという施策なのかなというイメージである。あと、先ほどから議論になっている子育て世代の目標値の設定は定員数で設定しているが、この定員数というのはたぶん条例上の定員数で実際の募集数ではない。だから、定員数に空きがあってもこの数字は変わらないようなイメージである。子育て支援の施設に関していうと、個人的には都市機能誘導区域内ではなくても、いわゆる居住誘導区域に近いところであっても便利だと思う。皆さん車で移動する人が多くて、例えば都市機能誘導区域内に保育園の子どもを連れて行こうとすると、車を停める場所がなくて大変な状況である。そういったことを考えると、居住誘導区域も含めて待機児童をゼロにするとか、この設定を再考してもいいのかなと思う。都市機能誘導区域はかなり狭いエリアなので、そこに新しく保育園やこども園をつくるのは現実的には難しい。居住誘導区域だと保育園が足りていない場所もあり、また今は保育園の建設は市街化調整区域のほうに流れている。皆さん車で送迎するから、徒歩や自転車で子どもを連れていく人は少ない。それでも、待機児童の数が少なければ豊明市で子育てしたい人が来るはずなので、定員数よりは違ったものさしで子育て世代を誘導する方がいいのではないかな。

馬場委員

私は市民生活部長ということで、一部防災関係の担当もしている。昨今の台風、大雨による災害は年々大きくなっているというような状態である。例えば治水の部分では、豊明市という自治体1つで考える計画と、境川のような流域的な計画が当然必要になると思う。住む人には安全・安心が必要になると思うので、豊明市内の部分と広域的な部分をそれぞれ考えていけたらなと思う。

#### 4. 閉会

井澤委員長

一通りご意見いただきましてありがとうございます。今回7章を中心に説明していただいたわけですが、指標の取り方については色々ご意見があると思います。数値目標と各指標の整合性がうまく取れているのかどうか、高齢化が進めば豊明市内の子育て世代の割合が変わってくるのかどうか、公共交通の指標では車との分担率、あるいは指標を設定するにあたっては中間的な指標を設けるともっと評価しやすくなるのではないかという、いわゆる評価についての指摘をたくさんいただきました。それから、施策として実現していくという点について、できるだけ具体的な施策がもちろん望ましいわけですが、これがどこまでリアリティのある施策として書いていけるのかどうか、というのはこれからの課題かと思っています。言葉の定義の問題としては、市民にわかりやすいことと作業するにあたっての定義、これは打ち合わせで話が必要かと思っています。それから、桜花学園さん並びに藤田医科大学さんも人材育成と地域のまちづくりの協力関係をより緊密な関係な形にさせていただいて、住みよいまちづくりにご支援していただけたらなと思います。洪水の問題については2種類あるといったご意見をいただきました。長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。

川島課長

次回の委員会の日程については、改めて調整させていただきます。

井澤委員長

これをもちまして第3回豊明市立地適正化計画策定委員会を終わらせていただきたいと思っています。ありがとうございました。

委員一同

ありがとうございました。

以上